

編集後記

激動の平成20年、多くの外科系学会の特別企画で「外科医不足」「医療崩壊」が叫ばれています。世の中はというと社保庁の年金問題に始まり、ガソリン値上げ、ついには「アメリカ発の世界恐慌に近い不況の嵐」に世界を代表する超一流企業と言われてきた多くの大企業が翻弄されています。その余波で派遣社員の大量解雇、正社員にまでその波は押し寄せています。

しかし、何か世の中はその状況を超越しているかのような、そうでなければ諦めて目の前の今を楽しもうというのか…。クリスマスケーキ、おせち料理の予約は例年の30%増とか…。この傾向は医療の世界でも垣間見られます。病院執行部は業績挽回に躍起になっている一方で、病棟での一般医療スタッフの仕事ぶりは普段通り。

迷走した給付金、就職内定取り消し、八方ふさがりの麻生政権の行方も含め、本号が学会員の手元に届く頃には何らかの結論が出ているのではないのでしょうか。いずれにしても一歩でも改善に向かっての解決が望まれます。

最後になりましたが、42巻2号には原著論文2編、症例報告14編を収載しました。

(長尾二郎)